

幼兒の唱歌は如何に取扱ふ可きか

後藤ちとせ

子供と唱歌

目があれば視覚に伴ふ美感を喜び、味覚には美味
 嗅覚には芳香を慕ふ等、人は諸感官に伴ふ美を追
 求するもので御座いますから、聴覚ある上は音楽
 を喜ぶのは自然で、之を満足せしめ、且つ是を發
 達せしむるのは至當の事と存じます。殊に澤山の
 美術の中で最も早く幼兒の美感を動かすものは音
 樂なすうで御座います。成程子供は唱歌すき音
 樂好きなものであり、調子優しい子守歌に泣
 きたる稚兒も眠りに就き、美しい歌や音楽にも騒
 き立てる幼兒の心も打ち沈める力があります。唱
 歌も知らず樂器をも耳にせぬ奥山住ひの樵夫が子
 等も谷の響や鳥の聲扱ては秋の虫のあはれさ等自
 然界の音楽に心動かさぬ者なかるべく、不風流な
 る陋巷の兒さへ石うち合はして拍子整へる其音を
 嬉しがるなど皆是れ幼兒等が聴覚より入る美感を

喜ぶの徴し進んでは音楽を好く證據というて宜し
 からうと思はれます。且つ幼兒社會に流行する、
 言葉の中には自ら節の定まつた唱歌じみたもの、
 あるのは少しく幼兒等の集合に注意すれば直ぐ見
 出し得る事で、彼の鬼事の際に於ける一紙なしぢ
 やん」とか「お山の大将おれひとりわとから来る者
 云々」とか云ふのは皆定まつた節があり、又童謡
 などいふもの、者から有つた事を思ひますと、如
 何に幼兒等が唱歌をすくか、解りませう。幼兒生
 活から遊嬉を除いてしまつたなら幼兒の活動は殆
 んと已むと云うて宜しいと同時に唱歌的な部分を
 除き去らば其の趣味のある詩的な所は皆とり去ら
 れて至極雑風景なものとなり果てませう。斯く唱
 歌は幼兒等が殆ど先天的に好くもので而も教育上
 種々有益な効果のあるもので御座いますから幼稚
 園保育事項の一として缺くべからざるものとなつ
 て居るもの偶然の事では御座いませぬ。

唱歌の價値

小學校令施行規則の中幼稚園に關した規定中に
 唱歌は平易ナル歌曲ヲ唱ハシメ聽器發聲器及呼

吸器ヲ練習シテ其ノ發音ヲ助ケ心情ヲ快活純美ナラシメ兼テ徳性ノ涵養ニ資センコトヲ要ス

とあります、是れも幼稚園唱歌の要旨及び目的を含むものと云ふべきで此等の目的を達し得るに叶うた上は智徳體の三育ト何んな唱歌の價値を認むべきか直ちに豫想し得る、事で御座います、即ち音調の高低、音色の美惡拍子の觀念、曲想の如何等の了解は幼兒聽器の發達を促し、不全なる彼等の發音は談話の際に於けるよりも、より多く唱歌の場合に矯正せられ、胸廓はひろめられ、姿勢は正され、呼吸器全体の發達をよくし、歌詞の内容音曲の美により自ら幼兒の心情を和らげ、月を見ては月の歌を、雁を聞いては雁の歌を唱ひ出づらむ趣味ある心を養ふは實に是れ唱歌の效果の主なるもので御座います。更に尙散漫せる幼兒等の注意をまじめ喧嘩を打黙める折等には禁止説諭にも増して有効なもので、室内保育の際さわぎ出して困る折にも唱歌ひき出し幼兒等の好く歌を唱はせるが何より手輕な且手際よき鎮靜良

法で御座います。

唱歌の選び方

其國の音樂によつて其國の風俗習慣盛衰興亡がわかること云ふ事は支那の學者が古くから申した事と思ひますが、佛國々歌マルセイユが普佛戰爭の際創めて唱へ出さるゝや意氣消沈せる該國々民を勵起せしめ、老若男女を驅つて戰に赴かしめたといふ話があるかと思へば鄭聲曲など云ふ熟字さへあるのでも如何に音樂が人心に影響を及ぼすかまして可弱り幼兒の腦裡にはと思ひますと唱歌の撰擇も亦實に忽荷には出來ません、然らば其選擇には如何なる注意を要すべきか、どんな唱歌が適切か歌詞歌曲並びに歌の内容即ち唱歌の題等につき注意すべき點を左に掲ぐる事にしませう。

一、歌詞

(イ) 歌詞は幼兒等の了解力に適合せるものたるべき事

論語讀みの論語知らずとやらむ讀み得ても意味が了解らねば興味も起らず、ためにもならぬと同じ様に歌の意味が六ヶ敷くては

幼兒は唯記憶するのに苦しむ許りで唱歌の教育的價値は半以上減せらるゝわけでありますから歌詞は幼兒の了解力に相當した言文一致体若しくは韻文體のものが最も宜しう御座います。

而し茲にお断りしておく事は彼の幼兒、兒童等間に時々もてはやさるゝ流行唱歌例へば鐵道唱歌とか廣瀬中佐のうたとか將又電氣唱歌とかいふものが歌詞が中々六ヶ敷の記憶強き幼兒等は一番より廿番位まで暗記して得意に唱ふ者がある事です是は其歌曲が唱ひ易ひのと周圍の人々が幾回となく唱ふのを聞きかへす事により何時の間にか覺えてこの御座います。で此種のものはその性質の善良なるもの限り家庭に於て覺えて来た丈さらつてやる様にするが宜く流行るからと云うて無理に教へ込むのはいけません

(ロ) 歌詞全體の内容幼兒の思想趣向に適合し優美にして野鄙ならず音調なだらかにして唱ひ

易さのたるべきこと。

(ハ) 歌詞を作るに當り對句に注意すべき事
幼稚園唱歌の中好んで幼兒等の歌ふもの及び童謡などに就て考へますと是等の歌詞にも同音同語の繰り返されたるもの及び對句の多く用ゐられるのを見出しませう例は

椿

椿や椿 椿の花開いた 奇麗に開いた

一重や二重 赤や白や 白や赤や

奇麗に開いた 盛りに開いた

蓮の花

開いた 開いた

何の花開いた 蓮の花開いた

開いたと思ふたら 何時の間にか凋んだ

蝶

蝶々 蝶々 菜の葉に止まれ 菜の葉にわた

いたら 櫻に止まれ 櫻の花のさかゆる

御代に

遊べよ止まれ 止まれよ遊べ

童謡

蛙がなからから歸らう

蛙がなからから歸らう

の如き其例で御座います蓋し此種の歌詞は口調がよくて歌ひ易く且うつくしう聞ゆるからで御座いませうが歌詞撰擇上考ふべき一事項と思はれます

歌

(三) 歌詞大體は其儘になし置き或一部分のみ幼兒の隨意に變更し得るものは大に興味を感ぜしむる事例へば左の如きものです

雪

雪やこんこん 霰やこんこん

もつと降れ降れ 解けずに積れ

積つた雪で達摩や燈籠

こしらひませう おねえさま

此歌詞の中で「達摩や燈籠」の句は「兎や手鞠とも」何なりとも幼兒の好む物の名を入れ代ふる事を得べく結句なる「おねえさま」は「おとう様お母様お兄様扱ては太郎お花

二、唱歌の題

等幼兒等の望みの人の名に變更する事が出来ませう此種の唱歌は復習の際種々の言葉を入れ代ふる事により非常に興がりつゝ何の苦もなく復習の目的を達し得ることが出来てかもしらう御座います。

次に何の唱歌が宜しいかと申すと動植物自然界の現象、人事、人工物等幼兒思想の範圍内にあるもので、保育上に有益無害なものならば何の歌でも差支はない筈ですが雑な物を澤山に歌はせるよりは精選したものに熟せしむるが有効な様で御座います歌詞の内容は幼兒等の思考想像理想等凡て幼兒の思想界に基づきて作り出し選びますべく例令大人に興深くとも幼兒の喜ばぬものは不適切で御座います、他の保育事項との連絡及び季節等とも考へて其折々に適つたものを歌はせる様注意すべきは小學校と違ひがありません

三、歌曲につきて

イ) 幼兒の音域

幼児の音域は普通DよりDまでと見做されて居る様で御座います。が實際發聲をさせて見ますとDより高い音はなか／＼出難う御座います。がDより下は三四音出せる様で御座います。で、幼児にうたはす唱歌は此音域内で歌はるゝものを選ばなければなりません。但し幼児は、すんずん發達する者で御座いますから保育者は常に注意して彼等の音域を廣めて行く事につとめなければなりません。

(四) 調子

右の音域に基づき調子の高低をも斟酌し歌曲歌詞共に宜しきに調子の不適切なるは移調して歌はすべきで御座います。

(ハ) 拍子

拍子は四分の四、四分の二などが最も宜しく稀に八分の六等用ゐるも差支ありません。(ニ) 半音以下の細かい音程八分音符より短い音符の入つたものは六ヶ敷すぎないけません。(ホ) 歌詞に於て同語同句の繰り返されたのが好かるゝと同時に歌曲に於ても同じ節の繰り返

へされたのが喜ばれます。(ハ) 歌曲中例へば11-の如き27-の如く音の移り變りの急なものを即ちひづかしき音程のあるものは幼児には不適切です。但し同音程でも51-と唱ひ下ぐるが15-と唱ひ上ぐるより遙かに容易であることを記憶せねばなりません。

(ト) 曲想に注意すべきこと

活潑なものと優美なものと、愛らしいものと愉快なもの、静かなものと賑はしきものと、皆とり／＼に面白う御座います。が、あまり悲憂なものや沈みきりたるものなどは採らぬ方がよろしい、中で一番好かれるのは行進に合ふものゝ様で御座います。

